



色から選ぶ 家づくり

 サンクスホーム

tel.059-234-1122

■宅地建物取引業／三重県知事免許(5)第2851号
(公社)全日本不動産協会会員(公社)不動産保証協会
会員／東海不動産公正取引協議会加盟

■建築許可／三重県知事許可(般-3)第14245号

本 社／三重県津市高茶屋小森上野町1362番地3
津支店／三重県津市高茶屋小森上野町1362番地3
鈴鹿支店／三重県鈴鹿市神戸四丁目13番12号
四日市支店／三重県四日市市日永1丁目1-3
伊勢支店／三重県伊勢市小俣町湯田707番地

 サンクスホーム 名古屋

春日井支店／愛知県春日井市気噴町3丁目3番地11
名古屋則武新町店／愛知県名古屋市西区則武新町
三丁目 イオンモール Nagoya Noritake Garden 3F
大府支店／愛知県大府市月見町六丁目5番地



<https://zoma.sunkushome.jp/colors/>




THANKS HOME



色から選ぶ家づくり

家づくりでは気を付けるべき要素がたくさんありますが、
その中でもインテリアを中心に「カラー」は
住み心地を左右する大事な要素です。
長く住み続ける環境だからこそ、飽きにくい、
そしてモヤモヤとした後悔を抱えることない
デザインにしていきたいですね。
今回はインテリアを中心に、
新築においてライフスタイルから決める
色選びのコツを紹介していきます。
この内容に沿ってコーディネートすれば、
より満足度の高い家づくりになっていくでしょう。
それでは、まず結論から紹介します。

この本でお伝えしたいこと

- ✓ カラーコーディネートの黄金比、
および使う色の数の法則に従ってコーディネートをすることで
統一感があり整ったインテリアに仕上がる
- ✓ 黄金比を使った実例は本文内で、コーディネート例を見ながら解説
- ✓ さらに家具まで一緒に考えることができる住宅会社であれば、
住み始める直前まで考えた「完璧なコーディネート」を実現しやすい
- ✓ 法則に則ってカラーを選ぶことも大事ですが、
まずは新しい家での住まい方・暮らし方について相談し、
その暮らし方に合ったものは?と考えていくと選びやすい
- ✓ 家づくりが初めての方にとっては
意外とコーディネート自体が難しいため、
直感的に好みのベースカラーから、
整ったスタイル自体を選ぶ方が後悔は少なくなる
- ✓ 家づくりはデザイン・性能・価格で優先順位をつけ、
家族みんなにとって「意味のある満足感」が得られるものにしましょう

コーディネートは後悔しやすいポイント

注文住宅では考えるべきポイントがたくさんあります。

住む前の図面上のやりとりでは価格・性能値を気にされる方が多いですが、実際に住み始めると目に見えるインテリアや外観などが一番気になるポイントと言えるでしょう。

注文住宅の 失敗・後悔ランキング

- 1 間取りが使いにくかった
- 2 収納をもっと工夫すればよかった
- 3 冷暖房効率が悪かった
- 4 デザインがイメージと違った
- 5 視線が気になってくつろげない
- 6 音の問題まで配慮が足りなかった
- 7 細かい部分の使い勝手が悪かった
- 8 風通しや日当たりまで考えていなかった
- 9 予算オーバーしてしまった
- 10 メンテナンスまで考えていなかった

出典：注文住宅の失敗・後悔ランキングTOP10! プロのアドバイスも | HOME4U 家づくりのとびら

上図では「住んでから後悔したランキング」ですが、間取りが多くランキングで1位となる一方、「デザインがイメージと違った」という項目も意外と多い要素です。

しかし注文住宅であれば、自分が選んだはずのコーディネートにもかかわらず、なぜ後悔してしまうのか？

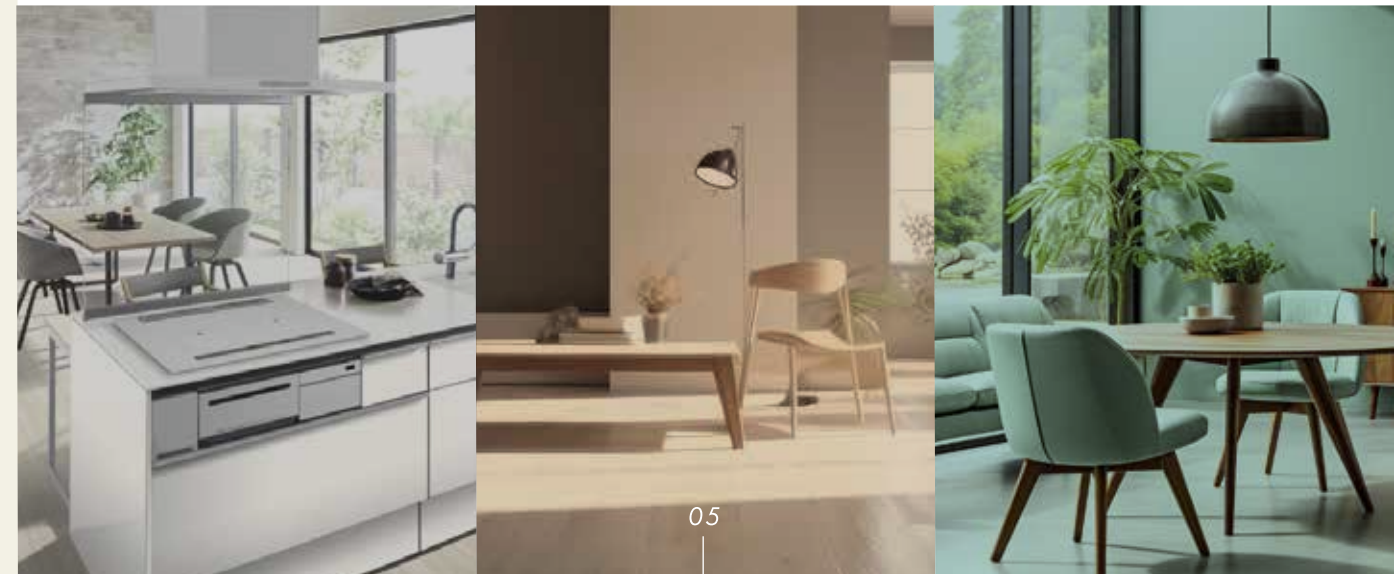
そこには“よくある原因”が潜んでおり、より良いコーディネートに近づくための、「ちょっとしたコツ」からをお伝えしていきます。

より良いコーディネートにするためのコツとは

コーディネートを、より一層満足感の高いレベルにするためには「バランス」が重要です。失敗の原因として最も多いパターンが、「ベースの色と組み合わせる色バランスが悪いこと」です。

カラーの黄金比

色	部 位	割合
ベースカラー	<ul style="list-style-type: none"> ・床 ・壁、クロス ・天井などの内装材(建具をこちらに入れる場合もある) 	約7割
アソートカラー	<ul style="list-style-type: none"> ・内装建材(建具・幅木・窓枠など) ・一部の壁面のクロス ・カーテン、ラグ ・ソファなどの大きい家具 など 	約2割
アクセントカラー	<ul style="list-style-type: none"> ・小物、クッション ・キッチンの扉柄 ・スイッチやコンセント ・建具の取手 ・家電 など 	約1割



Base Color
ベースカラー

床・壁・天井などの大きな面の色が「ベースカラー」になってきます。

一般的には、ホワイト・アイボリー・木目(濃～淡)・ライトグレーなどが選ばれ、「毎日目に触れても飽きにくいカラー」、「家具やカーテンなど空間に追加されるインテリアの色彩に合わせやすいカラー」がおすすめです。

Assort Color
アソートカラー

ベースカラーをサポートする2色目を「アソートカラー(配合色)」と言います。

主張しすぎず単調にもならない、といった意外とコーディネートにおいて配色が難しい色です。空間においてはカーテンや建具、ラグなどの色で調整することが多いです。また、ソファやダイニングテーブルといった比較的大きな家具も、このアソートカラーに合わせておくといいでしょう。

Accent Color
アクセントカラー

2色だけのインテリアだと単調になりがちなので、「アクセントカラー(強調色)」を差し込みます。

アクセントカラーには、ブラック・ブルー・グリーンといったベースカラーやアソートカラーに使うには勇気のいるような配色がおすすめです。アクセントカラーはカウンターや壁の一部など、空間において1割程度のちょこっとした部分にもってきます。インテリア建材でなくとも、クッションや雑貨などでもアクセントカラーを使うこともよいでしょう。

このように、まずは基本となる「ベースカラー色」から決めて、アクセントする色を2色までに抑えることが、コーディネートのバランスを整える方程式となります。

一方で、自分の好きな色がある方は、アクセント色から先行して決めて、そこから逆算していくという方法もあります。

特にベースカラーに使うには難しい赤色や青色などはアクセント色で、全体の1割だけに抑えることを意識して、全体のコーディネートをするとうまくいくでしょう。

いずれの方法も、3色のバランスを整えることで、スッキリとしたコーディネートに落ち着きます。

黄金比の実例(例:ナチュラルスタイル)

それでは早速、この黄金比を実例をもとに見ていきましょう。



上図の例ではベースカラーをオーク色で設定し、ナチュラルなインテリアにコーディネートしています。アソートカラーにブラックを差し込んでいることで、空間に高級感および上質感が混ざり込んできます。アクセントカラーには上の例ではブルーグレーにしていますが、ここは違う色で個性を出しても良いでしょう。



一方、ベースカラーは変えずに明るい雰囲気にしてみましょう。
アソートカラーをブルーグレーにし、
ジャパندی〜北欧テイストを強くコーディネートしてみました。
アクセントカラーとして窓枠と壁面に位置する家具をホワイトにしており、
最近の流行りであるインテリアパターンに仕上げています。
いずれのコーディネートも、7:2:1の黄金比と
3色という法則を崩さないようなコーディネートにしており、
この法則に従うとおしゃれなインテリアに仕上がります。

色の使い過ぎは失敗の元

上記で使う色は3色とお伝えしましたが、たくさんのカラーを使ってしまったり、3色の割合・組み合わせバランスがよくなかったりすると、コーディネートがまとまりにくくなります。

これは全体の雰囲気、すなわち「トーン」をいかに整えていくかが大事な要素であります。

カラーコーディネートに正解はないものの、7:2:1のバランスを基本にカラーを組み合わせることでおしゃれな空間に仕上がります。

どうしても、注文住宅となると各部屋の色やテイストを変えてみたいと思うものですが、これも後から悔やむ方が多いポイントでもあります。

インテリアスタイルを決める時は、このようにベースカラーを決めて、統一感と同時におしゃれなインテリアにしていくことが大事です。

ここまでのまとめとしては、「足し算」のコーディネートではなく、初志貫徹のつもりで、好みのデザインにあったカラーを軸に、コーディネートを考えることが大事です。

コーディネートスタイルを決めてからは、むしろ足したくなる自分との「引き算の戦い」、とも言えるでしょうか。



03

家具の選び方でも大きくイメージが変わる

そして、このカラーコーディネートは最終的に住み始める直前、すなわち家具が入った時点のバランス・比率が求められます。

よくあるケースとしては、家具が入る前までは整っていたものの、家具屋でまさに思いつきで買った家具がインテリアに合わない、もしくはこの比率を崩してしまうというケースがあります。



左図では、ブラックスタイルに合わせる家具の例を示したものです。

左はブラックをベースに整えていますので、違和感を抱く方は少ないものの、右の茶色のソファを置いている例では、ソファが浮いて見える方が多いでしょう。

このようにインテリアは住み始める直前までの、家具のコーディネートも合わせて重要になります。

しかし、まさに家具はお施主様任せとなっていることが多く、家具屋で目についたモノを置いてしまい、コーディネートが崩れてしまうケースもよくあります。

一般的に、住宅会社では家具の設計・コーディネートまではしませんが、反対にプランニングから家具まで一気通貫でコーディネートできる会社であれば、最終的な完成形でも整いやすくなるでしょう。

04

内観と外観のバランス設定

さて、ここまではインテリアに注目して失敗しないためのコツをお伝えしてきましたが、外観とのバランスも重要です。

和風の外観にモダンなインテリアでは、さすがにミスマッチ感があるでしょう。

また間取りによっては、室内・室外のつながりを意識して設計されることもあり、外観とインテリアのスタイルは、基本的に調和させていきましょう。

昨今のトレンドでは、屋根材にガルバリウム鋼板を活用したシャープなデザインを基本とした、シンプルモダンな外観が多くなってきています。

シンプルモダンは、純和風や純洋風以外のインテリアに合わせやすいという側面もあり、人気が高い外観です。

05

コーディネートは「足し算」になりやすい

ここまで、インテリアおよび家全体としてのコーディネートで失敗しないためのコツを紹介してきましたが、みなさんが1つ1つカラーコーディネートを考えていると、「迷ったら入れておく」という足し算方式でコーディネートを考えてしまうことがあります。

新築のカラーコーディネートの打合せでよくある事例で、先ほどのカラーコーディネートの法則を、家および家具トータルで調和しないとイケませんが、段々打合せが進んでいくと「あれも入れよう」「コレも入れよう」となりがちです。

最近流行りになっているモダン、北欧スタイル、和モダンなどのコーディネートでは特に重要なコトは「盛り込み過ぎない」こと。

まずは住宅会社のコーディネーターと打ち合わせをする中では、お気に入りの要素を伝えていきましょう。そこから理想のデザインに合うよう、「引き算」をしながらコーディネートしていくと上手くいくことが多いです。

また、収納の壁面だけ冒険した色合いのクロスにするといった例もありますが、まとまりがなくなりがちなので、スッキリさせることを意識し過ぎているぐらいがちょうどいいと言えます。

実際のおすすめのコーディネート例

それでは、実際のコーディネートの事例をみていきましょう。

Gray

グレースタイル



昨今、人気が高いグレーをベースカラーにしたモダンスタイルの例です。グレーのインテリアは、ホコリ等の汚れが目立ちにくいことや、無機質な感じで生活感を抑えやすいといった特徴もあります。

コーディネートのポイントを解説していくと、床材ではベースカラーとなるグレーを設定、ただしここではあまり強い印象を出さないように、グレーでも薄めのタイプをチョイスしています。アソートカラーではホワイトを選んでいますが、このアソートカラーをブラックにすると、スタイリッシュなインテリアになっていきます。

最後にアクセントカラーでは、レンジフードと照明に黒と濃い茶色を差し込んで空間全体に高級感を創り出していますが、全体的に彩度を落としてコーディネートすることがポイントです。

グレースタイルでは、基本的にホワイトを組み合わせることと、アクセントカラーでの演出が少し難しくなります。そのため、カウンター・家具・建具の取手・雑貨などでアクセントカラーを工夫することで、そのオシャレさや雰囲気が変わってくると言えるでしょう。

White

ホワイトスタイル



普遍的な人気があるホワイトスタイルの例ですが、ベースカラーをホワイト、アソートカラーをブラックにしている例です。

ホワイトをベースにしたインテリアは、部屋全体が広く見えることや、清潔感を演出しやすい特徴があります。

ここでのインテリアのポイントは、ソファにアクセントカラーとなるグレーを取り入れ、全体的に空間の落ち着き感を付加しています。

ホワイトスタイルの場合、洋風・北欧風・スタイリッシュ・シンプル、同じホワイトをベースカラーにしても、それぞれで違った印象になってきます。

ホワイトスタイルでアソートカラーとして使いやすい部位としては、建具・カーテン・家具(備え付けの造作家具含む)で、自分の好みを出しつつアクセントカラーで調整するスタイルがおすすめです。

アソートカラーとアクセントとの組み合わせによって、同じホワイトベースでも振れ幅が大きく、意外と上級者向けのインテリアスタイルと言えます。

Blue

ブルースタイル



ブルースタイルと言えど、ベースにブルーはどうしても難しいため、アソートカラーとしてブルーを採用しています。

ブルーカラーのインテリアスタイルの場合、明るくも落ち着く雰囲気、そして清潔感を印象付ける色の特徴があります。

ベースカラーのホワイトに組み合わせることで、爽やかな印象をアップし昨今人気の高いインテリアの1つになっています。

上図ではアクセントカラーとしてナチュラルな木目を部分的に入れ込んで、単調さを無くすとともに整ったインテリアスタイルに完成させています。

これが、2色だけになると物足りなくなったり、違う色が入ってくると空間が“やかましく”感じられるようになるため、3色とバランスによってキレイに仕上がることがわかります。

そして、ブルー・グリーンといった彩度が高い色をアソートカラーにする際には、どんなインテリアスタイルにしたいか?によってベースカラーが大きく変わってきます。

Moss Green

グリーンスタイル



コーディネート例の最後にお伝えする、グリーンスタイル。

グリーン、と言うと少し勇気がいるようなカラーと思う方も多いかもしれませんが、グリーンにリラックス効果もあり、観葉植物を置きたい方にもおすすめのコーディネートです。

ここでのコーディネートのポイントは、アクセントカラーをグリーンに設定することで、違和感のない仕上がりになっています。

また、グリーンと相性のいい比較的明るい色の木目を床材に使って、全体の調和を図るとともに、壁面や天井をホワイトにすることでグリーンが主張しすぎない程度に生きてきます。

パッと聞くと、コーディネートには使いにくいのでは?と思うようなカラーでも、このようにバランスを調整することで、コーディネートに使えるカラーに仕上げることも可能です。

色がもつ効果とは

それぞれの色が持つ効果、特にインテリアから人に対する影響について簡単に紹介します。色彩心理学とも呼ばれており、色は人の心の働き・感性に影響を与えていると言われており、無意識のうちに目に入ってくる色には下記のような効果・印象を与えます。

色彩心理学では、インテリアに反映されている色のポジティブな側面の印象が、暮らし方にも影響してきます。

ここでは、カラーコーディネートに使われやすい色の効果を紹介します。

White	白・ホワイト	清潔感・純粋無垢・軽量感・広がり(膨張色)
Black	黒・ブラック	高級感・洗練さ・エレガント・縮まる(収縮色)
Black	灰・グレー	控え目さ・穏やか・落ち着き
Brown	茶・ブラウン	ぬくもり・安心感・伝統的・自然
Blue	青・ブルー	清潔感・知性・爽快さ・涼しさ
Green	緑・グリーン	リラックス・エコ・自然・アウトドア
Yellow	黄・イエロー	明るく活発・躍動感・幸福感
Orange	橙・オレンジ	暖かみ・家庭的・陽気

彩度の低い色(白・黒・グレー)以外の色では、原色に近い色合いよりも、落ち着いた雰囲気を出せる色が人気になっています。

そのため、ブルーであればグレーが混ざったような色、グリーンも少し濃い目の色などがインテリアに使われ、活発という効果よりも鎮静といった効果が高いカラーをチョイスすることが多いです。

暮らし方からカラーを選んでいくとよい

ここまで4つのカラースタイルでのコーディネート例、そして色がもたらす色彩効果を見てきましたが、いかがだったでしょうか？

どの色が好き？という話になりがちですが、ここでは一歩深い話をしていきます。



色の好き・嫌いから選ぶよりも、ご家族がその新築でどんな暮らしをしたいか？を、この本をキッカケに話し合ってみることをおすすめします。

アウトドアがしたい、落ち着くりビングにしたい、断捨離をして生活感をなくしたスタイリッシュな生活がしたい、など。

この「どんな暮らしがしたいか」に合った、インテリアスタイルを選ぶとより一層、家づくりにおけるイメージがわかりやすく、インテリアスタイルもブレにくくなります。

例えばサーフィンが趣味のご家庭であれば、「海をイメージしたような暮らしがしたい」といったご要望から、爽快さが想起されるブルースタイルに当てはめていく、といったようなイメージです。

もちろん好きなコーディネートをそのまま使う方法もよいですが、カラーは朝起きてから寝るまでずっと目に入るモノ。

カラーは色彩心理学からも、みなさんの暮らしと密接に関わってくるので、まずは新築での理想の暮らし方をご家族で話し合ってみましょう。

「住んでから満足感が得られる」住まいづくり

家づくりはデザイン・性能・価格と様々な要素を組み合わせて考えていきます。建売ではなく、特に注文住宅であれば、なおさら選択肢が多く迷いがちです。まずは優先順位をつけて、家族にとって「意味のある満足感」、そして家づくりはその考えている図面上のものではなく、実際に住む時のことを考えて満足感が得られる家にしましょう。

デザインは最も「こだわる意味」を感じやすい

デザイン・性能・価格の中で、特にデザインを重視したい方は、当記事の前半でご紹介したように、ベースの色を決めるところから考えていきましょう。様々な会社の施工事例を参考にするのもよいでしょう。ご夫婦で好きなインテリアデザインを、インスタグラムやPinterestなどを活用して共有してみると、お互いの好みが分かりやすくなります。その上で、まずは「ベースカラー」「アソートカラー」「アクセントカラー」それぞれを決めておくといよいでしょう。そして最後まで統一感を出して仕上げることを考えていくと、家具のコーディネートまで完結してできる住宅会社選びが重要になってきます。



ライフスタイルを色から決める家づくりとは

そんな暮らしがしたいか？ライフスタイルは人それぞれ。そんな様々なライフスタイルは、実は色で大きく左右されます。スタイリッシュなライフスタイルを目指したい方はモノトーン、カフェ好きな方であればナチュラルスタイルや北欧スタイルなどを選ばれる方が多いです。人は、人生の時間で約半分の時間を自宅で過ごしますが、目に入る色で受ける影響は大きく色彩心理とも言われています。色彩心理とは、色が人の心や行動に与える影響のことですが、その家での暮らし方にも少なからず影響を及ぼします。カラーコーディネートは、その見た目だけでなく、その家族の人生を豊かにするものであると考えています。だからこそ、バランスが良い整ったインテリアスタイルが新築時における重要な要素となってきます。

完成度が高く満足感を追求したシンプルベストな家づくり

ZOMA COLOSは完成度の高い間取り、そして今回紹介した人気のカラースタイルを揃えており、必要以上に悩むこともありません。人気がある精鋭の間取りになっている規格住宅だからこそ、自分好みにアレンジするのはカラー。ZOMA COLOSのミッションは脱オーバースペックで、必要な性能は揃った状態となっているため、細かい設計上の打合せも不要です。住宅の基本性能として必要な耐震性、およびZEHを超えるHEAT20・G2グレードの断熱性・省エネ性を実現しており、まさに50年先まで考えた住宅シリーズになっています。その中で、ZOMA COLOSは自分なりのスタイルをシンプルで考えやすいことが特徴です。家としての必要な性能や、難しい間取りは既に決まっているため、目に見える性能である色や家具などのコーディネートに時間をかけることができます。オシャレなデザインにこだわりたい方は、後悔の少ない家づくりがしやすいZOMA COLOSを検討の1つに入れてみては如何でしょうか？ 気になった方は、ぜひお気軽にサクスホームまでご相談ください。